

## 学 校 経 営 計 画

杉並区立西宮中学校  
校長 石井良典

本校は、昭和36年（1961年）開校で、平成23年度（2011年）に50周年を迎えました。今年度、55周年を迎えます。杉並区内では23番目の中学校となります。立地環境としては、区内西部の住宅街にあり、近隣に都立西高等学校が立地し、落ち着いた文教地区の雰囲気があります。

また、京王井の頭線・久我山駅を中心に一部の商業地区もあり、新宿、渋谷、吉祥寺等へ交通至便であり、高等学校等の上級学校へ進学するにも利便性に富んだ地区となります。

区内でも学力上位校として西宮ブランドとも言うべきネームバリューを有し、卒業生や地域からの誇りを担う学校でもあります。

しかし、そのことに安住して教師の授業改善の努力や生徒指導の緩みを見せては、保護者や地域からの信頼は得られません。

今後、益々魅力ある信頼される学校づくりに励み、少子化の進展に対応し、一定規模以上の学級数を確保し、生徒に適正規模における教育を保障する学校経営を行っていかねばなりません。そのためにも生徒や保護者の期待に応え、学力・体力の向上をはじめ、今まで以上に開かれた学校を目指し、説明責任を果たしていく必要があります。

第一に学校の仕事は授業であります。授業の工夫・改善に努め、より一層の効果を得られる授業構築をするのは教師の責務であります。校内的には、組織的・機動的な学校運営を行い、教職員一人一人が積極的に学校経営参画意識を持って取り組むことが重要です。そして、それぞれの教職員が熱意と創意を持って自己の責任を誠実に果たし教育の目的を達成することを望みます。

### 1 育てたい生徒像

西宮中学校の教育目標

学習指導要領・杉並区教育ビジョン 2012 を基盤に、創造性豊かで、夢を持ち、未来を切り拓く力を持った生徒を育てるため、次の目標を掲げる。

- 心豊かな人      ◎ 自ら学ぶ人      ○ 健康な人

#### めざす生徒の姿

教育目標を具現化した生徒の姿として次のような生徒を育てたい。

自主・自立の校風を維持し、自由と規律のバランスのとれた生徒を育てる。

- 心豊かに、思いやりの心を持った生徒 (心豊かな人)
- 感謝の心、奉仕の心、協調の心を持った生徒 (心豊かな人)
- 自ら学び、自ら考え、行動できる生徒 (自ら学ぶ人)
- 自らを律し、自ら判断できる生徒 (自ら学ぶ人)
- 体を鍛え、たくましく生きる生徒 (健康な人)
- 自己を表現し、的確に意見表明できる生徒
- きまりや規律を重んじ、地域や社会に貢献できる生徒 (全人的に)

## 2 めざす学校像 ～信頼される要素とは～

### (1) 生徒をより良く変容させる学校

3年間で生徒は大きく成長します。生徒一人一人をしっかり受け止め、生徒の自立を支援し、卒業時には生徒がより良く変容している学校づくりをする。

- ① 自治能力を高め、生徒自ら活動する→→見本を見せ、刺激を与え、  
実践させる
- ② 個性を生かし、自立支援をする→→→→言葉かけを増やし、個性を見極めて、やる気を育てる
- ③ 発言・発表機会を増やす→→→→→→自己を見つめ、改善意欲を高める

### (2) 心に届く授業をする学校

学校の最大の仕事は授業です。生徒を生かし、心に届く授業を行うことが教師に求められています。厳しく楽しい工夫された授業づくりをする。

- ① 生徒が生き生きと参加できる授業をする→→思考・発言・行動を促す
- ② 生徒の心を動かし、納得させる授業をする→→認めて、やりきらせる
- ③ 楽しい中にも厳しさを伴った魅力ある授業をする→→迫力と規律の維持

### (3) 確実に学力をつける学校

学校の最大の責任は、生徒に生きた学力をつけることです。生徒の生きる力を育み、確実に学力を伸ばし、次代を担う有用な人材を育てる学校づくりをする。

- ① 基礎・基本を徹底指導し、我慢強く実践する生徒を育てる
- ② 知力に偏らず、学ぶ意欲を育て、チャレンジ精神を涵養する
- ③ 次代を担う社会に有用で公正な人材を育てる

### (4) 安心で安全な学校

公立学校は地域の学校です。地域から信頼され安心して子どもたちを迎えられる安全な学校づくりをする。

- ① 心理的環境で安心できる心落ち着く学校づくりをする  
⇒⇒特別支援校内委員会の活用と校内研修の充実、全教員の情報共有  
⇒⇒教師一人一人がカウンセリングマインドとガイダンスマインドを持ち、教育相談活動を充実し、SC(スクールカウンセラー)、SSW(スクールソーシャルワーカー)、済美教育センター・特別支援教育課(適応指導教室等)と連携を強化する。  
⇒⇒いじめ防止対応(いじめ防止基本方針の活用)等、調査の有効活用を図り、生徒会活動とのリンクを促す。  
(すぎなみ未来サミットへの協力)
- ② 不登校生徒への対応を強化し充実する。  
⇒⇒早期対応、心に寄り添う指導、SC、SSW、関係機関との連携
- ③ 学校給食の安全を確保し、アレルギー対応に万全を期す。  
⇒⇒確実な確認と対応、連携による複数対応
- ④ 施設・設備環境で安全な学校づくりをする

⇒⇒危険個所の把握・改善、点検・整備・即時対応

#### (5) 生徒・保護者・教職員が誇りと愛着を持てる学校

生徒にとっては我が母校、保護者にとっては子どもを委ねる学校、教職員にとっては自己の能力を発揮する職場です。誰もが誇りと愛着を持てる、良き伝統と校風のある学校づくりをする。

- ① 生徒が自己実現でき、自信を持って活動する
- ② 家庭・地域の教育力を生かし、連携を強化する

### 3 組織運営の基本方針 ～学校組織としての基本事項～

- (1) 生徒に向き合い、丁寧にして積極的に生徒理解に励む。  
〔生命尊重・人権配慮・体罰禁止〕
- (2) 主幹・主任の役割分担と校内 OJT の活性化による若手教師の育成  
〔校内組織の活性化〕
- (3) 教職員相互（教員・主事に関わらず）の個性を生かしつつ組織で対応し、「報告・連絡・相談・確認」を的確に行う。  
〔コミュニケーションの円滑化と機動的対応〕
- (4) P T A ・家庭・地域との連携協力を推進し、共育学校支援本部や学校運営協議会（CS）を活用する。  
〔開かれた学校の実現・説明責任を果たす〕
- (5) 教師として課題意識を常に持ち、その専門性と指導力の向上に努める。  
〔自己研鑽・研究・研修の推進〕
- (6) 教育公務員としての意識を常に保持する。  
〔法令遵守・サービスの厳正保持〕
- (7) 予算の適正執行・管理とコスト意識の向上を図る。  
〔公費・私費管理執行の厳正化〕

### 4 中期的目標と方策（3年後に向けて）

- (1) 生徒、保護者、地域からの信頼をさらに高めるため、日々の教育活動を一つ一つ確実に積み上げ、開かれた学校をめざす。
  - ① 教育課程の改善・充実を図り、学力向上に努力する
    - ⇒ 確実な授業時数の確保を継続する
    - ⇒ 各種学力調査結果の数値向上をめざす
    - ⇒ 充実した学校行事の実施と創意工夫の実践
  - ② 日々の授業を計画的に確実に実施する中で、より質の高い授業をめざす。
    - ⇒ 生徒・保護者の授業評価の数値を年毎に上昇させる
  - ③ 学校からの発信を増やし、より開かれた学校をめざす。
    - ⇒ 学校参観者数を増加させ、ホームページの閲覧数を増やす
    - ⇒ P T A 等との連携を強化し、関係機関や地域行事への積極的参加を進め、連携・協力を促進する。
- (2) 外部関係者学校評価の結果を踏まえ、課題解決に取り組む
  - ① 指摘された課題を分析し改善策を見いだす。
  - ② 学校を取り巻く教育支援の環を広げ、学校力を高める
    - ⇒ 企画委員会を中心に各分掌で検討・提案を図る

(3) 小中一貫教育の連携・推進を図る。高井戸第二小・松庵小との関係性を深め、安心して中学校へ進学できる環境を整える。

① 「知りあう→かかわり合う→生かし合う」各校教員同士が見える関係性を構築する。⇒各教科で実践できることから開始する

② 児童・生徒の連続性を意識した取組を行う。

⇒学校紹介、部活紹介等、安心して進学できる環境づくり

⇒小・中の学級経営にポイントを置き、児童生徒の学級所属意識を高める研修を行う。(Q-Uテストの共通実施)

(4) 当面の課題に対して方策等を検討する。

① フロントシップスクールの実施方面についての検討と調査を継続する。

② 体育館壁面整備、校舎老朽部分、その他、安全管理について調査し必要に応じて教育委員会等へ要請する。

## 5 今年度の目標と方策

### (1) 教育活動の目標と方策

#### 〈教科指導の充実〉

① 基礎・基本を徹底指導する。

② 研究・研修を深め、指導法の工夫・改善に努力する。

③ 年間指導計画を吟味し、計画的に実践する。

④ 教育機器 (ICT) ・デジタル教科書等の活用に励む。

⑤ 教材・教具の改善・開発に努める。

⑥ オリンピック・パラリンピック教育との関連を図る。

⑦ 学力調査結果を活用し生徒の意欲に結びつく指導をめざす。

⑧ 評価・評定について、評価規準・基準を明確にし、豊富な評価材料を用いた適正な評価・評定を行う。

⑨ 授業時数の確保とともに、授業の質の向上をめざす。

⑩ 数学の少人数授業でよりきめ細かい指導に努める。

#### 〈心の教育の推進〉

① 道徳の教科化に対応し、内容を充実し、道徳の時間をより大切に活用する。

② 体験学習の実践を重視し、計画的に取り入れる。

③ 生活指導の徹底と見逃さず、聞き流さない指導をする。(手引きの活用)

④ 諦めない指導を通じて、我慢する心の育成を図る。

⑤ 最後までやり抜く取り組みを重視する。

⑥ 発表・発言の機会の増設に努める。

⑦ 話し方、聞き方、姿勢、挨拶や服装、マナー指導を強化する。

⑧ ライフスキル、エンカウンター等、生徒に寄り添う指導の充実を図る。

⑨ 各種ボランティア活動を充実する。

⑩ 「心を鍛える」ことを年間テーマにして、生徒の心のあり様を考えさせる指導を工夫する。

### 〈総合的な学習の時間の充実〉

- ① 自ら課題を見つけ、調べ、学び、考える力を育成する。
- ② 土曜授業等を活用して、社会に学び、自らの生き方を高める学習を重視し、外部からの指導者（ゲストティーチャー）を有効活用する。
- ③ 自らを見つめる手立てを整え、キャリア教育の一環として職業体験学習（連続5日間実施）・上級学校訪問等、3年間を見通した計画立案と学年間の準備の共通化・効率化を図る。

### 〈特別活動・学年・学級経営の充実〉

- ① 集団としての規律や質的な向上をめざす。
- ② 各種行事や学級活動を通じて人と人との関わりを重視させ、心の痛みや人を思いやる心の育成を図り、コミュニケーション能力の向上に努める。
- ③ 班活動等を積極的に取り入れ学級集団を組織化し、自治能力を高める。
- ④ 生徒会活動に積極的に関わる風土をつくり委員会活動等を活性化する。
- ⑤ 生徒の発表機会を増やし、発言態度や発表意欲を涵養する。

### 〈特別支援教育の推進〉

- ① 特別支援教育の必要な生徒の把握に努め、個別支援を計画的に行う。
- ② 教師自身も特別支援教育に関しての理解を深め、指導スキルを向上させる。

### 〈学校図書館活動の推進〉

- ① 学校図書館活用モデル実践校として、学校図書館を活用した教育活動を推進する。
- ② 各教科教員と学校司書の連携を深め、読書活動並びに情報活用能力向上を図る取組を強化する。
- ③ 計画的な図書購入を進めて、学校図書館蔵書の充実を図る。

## (2) 学校運営等の目標と方策

### 〈特色ある教育活動の推進〉

- ① 土曜日の学校公開・授業参観・学校行事（西宮祭）を実施し、保護者、地域の方々の学校への来校機会を増やす。
- ② 共育学校支援本部との連携強化により共育を推進し、外部人材の導入とともに変化に富んだ魅力ある授業構築を実現する。
- ③ 生徒の良い人間関係づくりのスキルアップを目指し、ソーシャルスキル及びメンタルトレーニングを強化し、Q-U テストの実施を通じて生徒のアセスメントを進め良い学級集団の構築を図る。
- ④ 学校司書と連携した授業づくり、新聞活用による読み解く力の育成や「かかわり」と「つながり」を重視した学校図書館づくりを推進し、安らぎのある教育環境をつくる。

- ⑤ スクールカウンセラーと連携し、特別支援校内委員会のシステム化を強化し、特別支援の必要な生徒の把握と支援に努めるとともに教育相談活動を充実し、アンテナを高くして、いじめの早期発見、不登校生徒の減少に努める。

#### 〈教育環境の整備・充実〉

- ① 限られた人員配置の中で最大限の力を発揮し、効率化と重点化に努める。
- ② 校内研修の充実と計画的実施を図り、教育効果に連結させる。
- ③ 効率的な予算執行を図り、効果的に物的環境を整える。
- ④ カウンセリングマインドに留意し、生徒の心理的環境を整える。
- ⑤ 学校評価を十分に踏まえ、学校運営協議会（CS）との連携を図り、その意見等も真摯に受け止め学校改善に努める。
- ⑥ 生徒の授業評価等の学校独自評価を活用し、生徒の学習意欲改善に資する。
- ⑦ 光熱水費、用紙等の節約に努め、エコ環境を整える。

#### 〈校務処理の充実〉

- ① 主幹・主任の職務を通じて、Plan-Do-See-Action を念頭に、計画的に、効率的に、組織的に対応する。
- ② 報告・連絡・相談・確認の徹底と時間の有効活用に努める。
- ③ 諸会議の効率化を図り、計画的な組織運営をする。
- ④ 校務パソコンシステムによる諸表簿の作成・管理を徹底し、個人情報保護を図る。
- ⑤ 公費・私費の会計精度を高め、責任を明確にした確実な執行と決算を行う。
- ⑥ 事務室との連携を深め、会計管理、物品管理、薬品管理等、確実に執行する。また、規定に則った廃棄処理も確実にを行う。

## 6 教育課題の検証指標

- (1) 各種学力調査
- (2) 各種意識・実態調査
- (3) 学校評価（内部・外部）
- (4) 生徒の授業評価
- (5) 学校運営協議会（CS）委員の提言
- (6) 授業参観・学校公開・行事参加保護者からの声・参観者数等
- (7) 教員の研修参加回数・発表機会・研修報告数
- (8) 外部人材活用授業実施数
- (9) P T A・共育学校支援本部・地域連携等の実践状況
- (10) 年間指導計画・評価計画・週案簿等の諸帳簿
- (11) 管理職評価（自己申告書・研修・キャリア形成等）